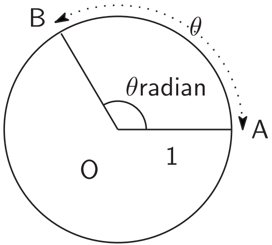
本日やること

1. 三角関数
   - 弧度法
   - 回転の角
   - 定義
   - グラフの作図

三角関数

弧度法

弧度法の定義



$\theta > 0$ とする.
原点中心半径 1 の円において弧 AB の長さが θ であるとき,

$$\angle \mathrm{AOB} = \theta \ (\text{ラジアン})$$

であると定める.

このような角の大きさのはかり方を**弧度法**という。普通、θ (rad) と書くが (rad) を省略することもある。

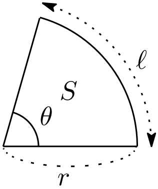
度数法と比較すると,

1 回転 $= 360°$, 半径 1 の円の円周の長さ $= 2\pi$

だから

三角関数

弧度法の性質



半径 r 中心角 θ(rad) の扇形 において

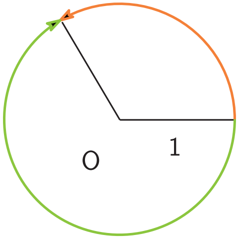
弧の長さ：$\ell = r\theta$

面積：$S = \pi r^2 \times \dfrac{\theta}{2\pi} = \dfrac{1}{2} r^2\theta = \dfrac{1}{2} r\ell$

三角関数

回転の角

回転の角の定義



P が原点中心半径 1 の円周上を回転しているとき

P の回転の角が θ (rad) であるとは

正の向きの回転のとき $\theta =$(P の軌跡の長さ)
負の向きの回転のとき $\theta = -$(P の軌跡の長さ)

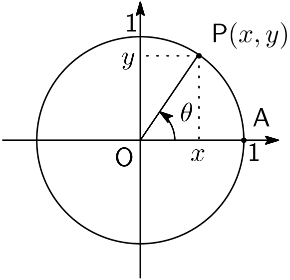
であること．ただし

正の向きの回転：左回り (反時計回り) の回転
負の向きの回転：右回り (時計回り) の回転

三角関数

定義

三角関数の定義



P を原点中心半径 1 の円周上を A$(1,0)$ から正の向きに θ ラジアン回転した点とし，P の座標を (x,y) とするとき

$\cos\theta = x$: 余弦

$\sin\theta = y$: 正弦

$\tan\theta = \dfrac{y}{x}$: 正接

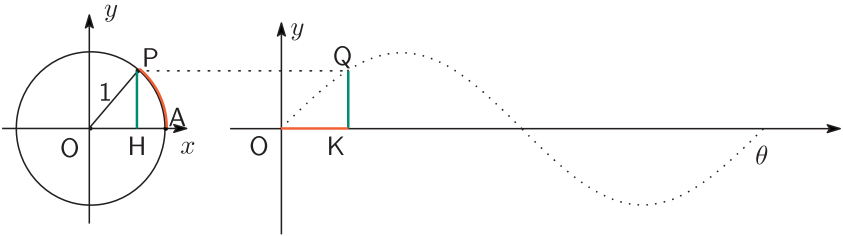
と定める。(分母が 0 となるときは定義しない)

また，これらによって定められる関数 $f(\theta) = \sin\theta$ 等を三角関数という.

三角関数

グラフの作図

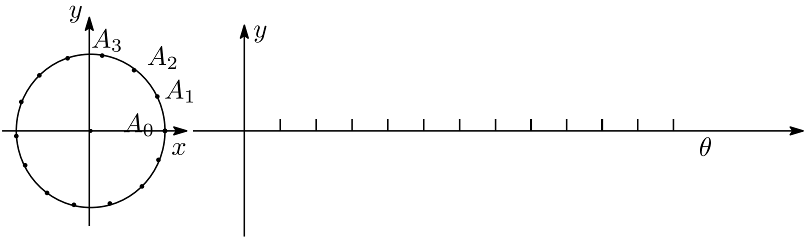
[考え方]



1. x, y 平面に原点中心の半径 1 の円を書き，円周上に点 A$(1, 0)$，P(x, y) をとる。∠AOP$=\theta$ とすると三角関数の定義により，(弧 AP の長さ)$=\theta$，$y = \sin\theta$ となる。
2. 三角関数 $y = \sin\theta$ は θ に対して y を対応させる関数であるから，そのグラフは，θy 平面に点 H(θ, y) をとるとき，P を円周上で動かしたとき H がえがく曲線である。
3. 上の図を用いて $y = \sin\theta$ のグラフを書くには，K を　(弧 AP の長さ)=OK $(=\theta)$　となるようにとり，Q を HP=KQ となるようにとればよい。

三角関数
グラフの作図

[座標軸の用意]

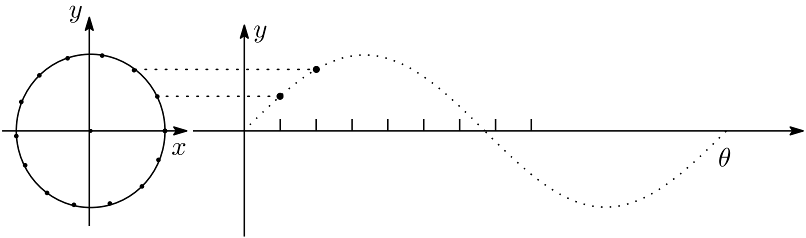


(0)　前のページの 3 のことを実現するために, 円筒のふちにグラフ用紙を細く切って巻き付けたものを使う。
(i) グラフ用紙を横長に使い、左側に xy 平面の座標軸、右側に θy 平面の座標軸を書け。用意した円筒を使って xy 平面に原点中心の円をかけ。円筒の直径を測って円筒の中心が原点に来るようにせよ。
(ii) 円筒に貼り付けてあるグラフ用紙のメモリを利用して、円周上に 1cm 間隔で点を打て。初めの点は x 軸上にとれ。(これらの点を $A_0, A_1, A_2, \cdots$ とする。)

三角関数

グラフの作図

[$y = \sin\theta$ のグラフの作図]

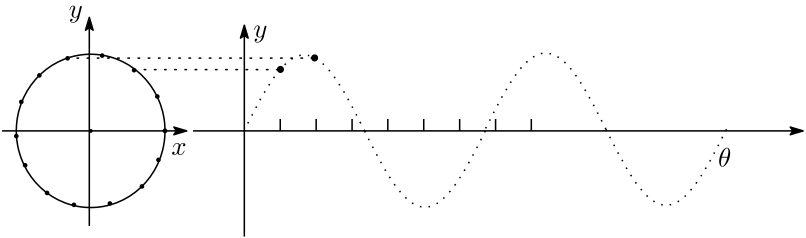


θy 平面に $y = \sin\theta$ のグラフの概形をかこう．円筒の半径を 1 と見なす。
$\theta = 0, 1, 2, \cdots$ に対して y 座標は $A_0, A_1, A_2, \cdots$ の y 座標であるような点を θy 平面に打っていき、なめらかに結べば、円筒の半径を 1 とした $y = \sin\theta$ のグラフがかける。

三角関数

グラフの作図

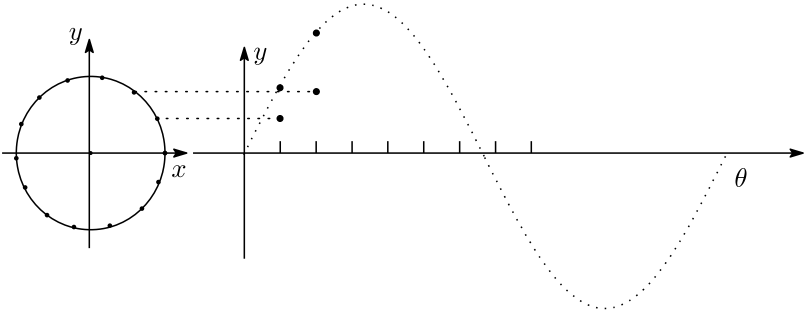
[$y = \sin 2\theta$ のグラフの作図]



θy 平面に $y = \sin 2\theta$ のグラフの概形をかこう．円筒の半径を 1 と見なす。
$\theta = 0, 1, 2, \cdots$ に対して y 座標は $A_0, A_2, A_4, \cdots$ の y 座標であるような点を θy 平面に打っていき、なめらかに結べば、円筒の半径を 1 とした $y = \sin 2\theta$ のグラフがかける。

三角関数
グラフの作図

[$y = 2\sin\theta$ のグラフの作図]



θy 平面に $y = 2\sin\theta$ のグラフの概形をかこう．円筒の半径を 1 と見なす。
$\theta = 0, 1, 2, \cdots$ に対して y 座標は $A_0, A_1, A_2, \cdots$ の y 座標の 2 倍であるような点を θy 平面に打っていき、なめらかに結べば、円筒の半径を 1 とした $y = 2\sin\theta$ のグラフがかける。

三角関数

グラフの作図

$\sin$ のグラフ

(1) $y=\sin\theta$ のグラフは周期 2π で繰り返す波形の曲線である。

(2) $y=\sin 2\theta$ のグラフは $y=\sin\theta$ のグラフを θ 方向に $\dfrac{1}{2}$ に押し縮めたものであり，周期は半分振動数は 2 倍になる。

(3) $y=2\sin\theta$ のグラフは $y=\sin\theta$ のグラフを y 方向に 2 倍に拡大したものである。

$\sin 2\theta = 2\sin\theta$ は誤り。

三角関数

グラフの作図